

起業家5人が人生語る

苦労や夢を中学生に

東海村村民相談室が二ト対策に力を入れている。3日、同村船場の村立東海南中学校（川崎松男校長、生徒数457人）で、2年生を対象にした「職業人の話を聞く会」を開いた。県内の5人の中小企業の代表者が起業家としての苦労や仕事の大切さ、人生の夢などを話した。

東海村が二ト予防対策

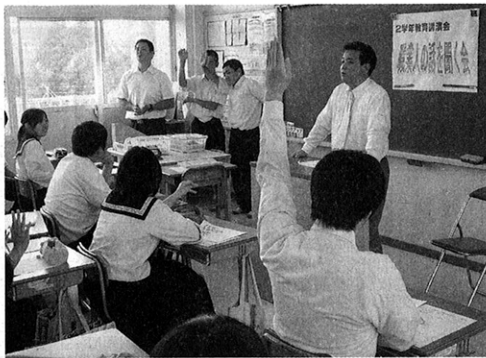
主催した村民相談Ⅴ相談、二ト相談な室は2年前に設置さなどを受けている。二ト状態にある人やその

家族からの相談の中から、若者の就労による社会復帰を目的に「二ト等支援セミナー」

を開催。さらに早期段階での予防効果を考え、同村で中学2年が取り組む「立志の年」の事業として「職業人の話を聞く会」を企画した。

講師は▽住宅会社「アルホームズ明る」の安倍鴻祥社長▽ITコンサルタント「アイ・シー・キョウブ」の江幡博明社長▽

起業家5人がそれぞれ的人生を語った



（飯田勉）

雑貨「布笑布」さん、〓の梅原みつ江代表▽建設業「立原工業」立原教子取締役▽コンサルティング「マネジメントセンター」の松本幸雄社長らの5人が務めた。講師たちは2年生の5クラスそれぞれ分かれ、自らの人生や起業のきっかけ、自立する心がけなど語りかけた。

は「テストの点数で人生は決まらないが、チャンスは持つてしまろ」と目標を掲げたことの大切さを示した。

また、梅原さんは「皆さんは親などに守られて育ってきたはず。一生をかけてやり遂げる好きなことを見つけて始める年齢になってきた。自分のスタイルで生きて行くことが大切で、自ら選んで進んだ道なら後悔しない」とエールを送った。

女子生徒は「話を参考に職業について考えていきたい」と感想。2学年主任の栗田徹教諭は「今の子どもたちは人の心を察することが困難になっている。気が付かないところで支えられ、将来は自分たちが支える側になることを感じてほしい。聞く会が気持ちのきっかけになれば」と期待し

た。同相談室の町野恵子課長補佐は「義務教育の中で仕事を持つことの重要性を少しでも伝えたい。今後も学校と協力して予防策をしていきたい」と話した。同日は授業参観日でもあり、保護者も熱心に耳を傾けていた。